

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第13回安塚区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ○報告事項（公開）

- (1) 雪だるま高原将来計画の概要について
- (2) 消防団安塚方面隊の再編について
- (3) 地域独自の予算の事業一覧について

### ○自主的審議事項（公開）

- (1) 住みやすい安塚の在り方について（地域活性化の方向性について）

### ○その他（公開）

## 3 開催日時

令和5年2月21日（火）午後6時から午後7時47分まで

## 4 開催場所

安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：池田裕夫、池田康雄、石田ひとみ、小松光代、新保良一、中村真二、  
松苗正二、松野修、山岸重正、吉野誠一
- ・事務局：安塚区総合事務所 小林所長、大島次長、小林市民生活・福祉グループ長（併  
教育・文化グループ長）、唐澤班長、村松班長、齋藤主任、萬羽主任
- ・施設経営管理室：青柳副室長
- ・浦川原区総合事務所：滝澤主幹

## 8 発言の内容（要旨）

### 【大島次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・外立委員、秦委員の欠席を報告

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

**【松苗正二会長】**

- ・挨拶

**【大島次長】**

本日の会議録の確認は、内規により松苗会長にお願いします。

条例第8条第1項の規定により、松苗会長から議長を務めていただく。

**【松苗正二会長】**

それでは、次第3報告事項(1)雪だるま高原将来計画の概要について、から議事を進めていく。本日は、担当課の施設経営管理室と浦川原区総合事務所の職員が出席されているので、説明を求める。

**【施設経営管理室 青柳副室長】**

前回の第12回地域協議会では、安塚区総合事務所の小林所長から、キューピットバレイスキー場の将来計画と新第2リフトの建設について、概要を説明させていただいた。昨日、次期財政計画と令和5年度予算案が市議会へ提案されたことから、本日は、事業費や工事期間等を含む雪だるま高原施設整備活用基本計画の内容について、説明させていただきます。

資料1に基づき、雪だるま高原施設整備活用基本計画の概要を説明。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

私からは、前回の第12回地域協議会でご質問のあった事項について、説明させていただきます。

まず、池田康雄委員の「インバウンドで10万人を目標とあったが、宿泊者も含めての目標と考えているか」とのご質問についてである。

指定管理者である株式会社スマイルリゾートは、コロナ禍などの現状において、スキー場営業のみに特化した状況から、徐々に営業内容を拡大し、利用者の増加を図りたいとしている。今回整備する新第2リフトを、利用者増加の大きな要素として期待しており、10万人という目標は、スキー場の冬季の利用者数だけの目標であり、宿泊やキャンプ、温泉の利用者数の目標は別になっている。

ちなみに、キューピットビレッジの宿泊者数は、株式会社スマイルリゾートの指定管理1年目の令和2年度は0人であったが、2年目は581人、3年目の令和4年度は1,341人と着実に増加している。

次に、吉野委員の「少雪時、第2クワッドリフトは上だけで遊べるのでよいと思うが、緑色の①コースのゲレンデは整備されるのか」というご質問についてである。

第2クワッドリフトを更新し、さらに600メートル延伸する最大の理由は、①のソレイユコースと接続することにある。このことによって、雪質が良い上部ゲレンデの6本のコースを1本のリフトで楽しめるようになる。非圧雪以外のコースは、きちんと圧雪整備するコースである。

次に松苗会長からの「第1クワッドリフトは距離が長く、風も強く寒い。第2クワッドリフトを新しくするのであれば、フード付きにしていきたい。クワッドリフト自体、風で大変寒いのでフード付きを考えていただきたい」というご意見についてである。

今回の事業は、設計・施工一括の工事入札となる。第2クワッドリフトを600メートル延伸し、輸送能力や停電時の予備電源等、現在の第2クワッドリフト以上の性能を備えることを要件としている。フード付きの搬器は、風に弱い傾向があるため、寒さ対策の効果と風によるリフトストップの頻度のバランスを考慮し、市としては、設計の必須条件にしていない。入札参加事業者の方で検討し、場合によってはフード付きの提案がなされる可能性もあるとご理解いただきたい。

続いて「赤線のところと黒線のマリオネットコースがスキー客の上を通るので、スキー、ストックが落ちて大丈夫なような方策を考えているのか報告いただきたい」とのご質問についてである。

現在の第1クワッドリフト、第2クワッドリフトについても、コースとクロスする部分がある。ゲレンデ上で発生する様々な事故に対する対策として、スキー客への注意喚起、看板の設置など現状の対策を徹底するとともに、今後新たなリフトの実施設計が行われ、リフトとコースの関係性が明らかになった段階で、指定管理者の運営面で徹底していくことも想定している。

説明は以上である。

#### 【松苗正二会長】

担当課から説明があったが、何か質問等あるか。

#### 【吉野誠一委員】

今回の整備について、目的としては、持続可能なキューピットバレイスキー場を目指すということになるのであろうと思っている。目標として、10万人という数字を掲げているが、目標に関するシミュレーションは市が行っているのか、それとも指定管理者が行っているのか。10万人という目標をどのように導き出したのか、お聞きしたい。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

資料10ページをご覧ください。現状の来場者数6万人に対して、3つの選択肢を挙げている。

①プランは、第2クワッドリフトを更新・延伸するというもので、今回採択されたプランである。②プランは、第4ペアリフトを再開するというプラン、③プランは、現状の3本のリフトのまま運営するというプランである。

各プランに対して、スキー場集客エリア・客層への影響を記載している。現在、パウダースノーが降った翌日は、第2クワッドリフトに行列ができていく状況が見られる。これは株式会社スマイルリゾートの戦略そのものである。この新しい客層を核として、北陸、関東圏まで集客エリアを広げ、インバウンドを取り込むことにより、10万人の集客数復活という効果が期待される。その他の2つのプランについては、現状の集客レベルからそれほど大きな拡大効果が見込めないという積算になっている。10万人復活には、延伸効果で2万5千人、リブランド効果で7千人、多角化による効果で8千人と見込まれている。リブランド効果というのは、株式会社スマイルリゾートが運営しているほかの4つのスキー場との相乗効果によって、さらにアピールを行うというものである。多角化による効果というのは、インバウンドと現在取り組んでいる障害者スキー等の拡充を図るというものである。

本計画は、指定管理者である株式会社スマイルリゾートから、自らの集客戦略と目標を掲げた提案を市へ提出いただいた後、資料の最終ページに掲載されている計画検討委員会の委員による専門的な意見を仰ぎながら、最終的に市が策定したものである。

**【松苗正二会長】**

ほかに質問等あるか。

**【新保良一委員】**

第2クワッドリフトの更新・延伸について、このように整備してもらえると、ソレイユやエトルなど色々なコースを気軽に楽しむことが可能になり、非常に良い計画だと思う。工事期間が3年となっているが、3年かけて新第2クワッドリフトを建設するということか。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

そうである。

**【新保良一委員】**

その場合、山麓駅舎は新設しなければいけないと思うが、山頂駅舎はどのようになる

か。角度等の関係で建替や改築が必要か。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

現在の想定では、一式建替えとしており、山頂駅舎の建設も含んだ事業費積算となっている。現在のリフトは32年前の施設であり、同じような高速クワッドリフトと言っても、スピードの面や停電時の予備電源など最新のものと比べ劣る部分が多い。今回、どのようなメーカーのどのような仕様のものが提案されるかは未定である。現在のところ、既存のものは全て撤去し、新設することを想定している。

**【新保良一委員】**

現在の第2クワッドリフトは、新しいリフトが完成するまで利用可能ということではないか。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

実施設計を待たないと確実なことは申し上げられないが、現在は工事期間が3年かかる前提である。もう少し早く完成させたいと考えていたが、世界情勢が厳しく、制御をするためのインバーター制御装置の部品が発注から納品まで20か月かかるような状況である。今後、情勢が変われば別であるが、現時点では、現在の第2クワッドリフトを取壊してから、新しいリフトをつくることを考えている。最悪の場合、工事2年目となる令和6年度の冬は、第2クワッドリフトがないということも想定しながら、株式会社スマイルリゾートと打合せを行っている。

**【新保良一委員】**

現在、第2クワッドリフトが集客の中心となっている。第2クワッドリフトが利用できないとなると、スキー場にとって致命的になると思う。その部分への対応はどのように考えているか。第2クワッドリフトが2、3年利用できない場合、現状の6万人からさらに減少してしまうのではないか。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

2、3年ではなく、1シーズンのみである。3年間の工事期間の中で、切り替えのタイミングにあたる1シーズンのみ利用できないという想定である。第2クワッドリフトが利用できないシーズンについて、どのような戦略で運営するのか、株式会社スマイルリゾートとこれから協議を行っていく。

**【新保良一委員】**

前回、松苗会長が言われたフード付きのリフトを検討してほしいという意見について、できれば私もフード付きがよいと思っている。確かにフード付きは風に弱いと言われて

いるが、ゴンドラも風に弱く、強風が吹くと止まっている。ただ、1シーズンの中でそれほど頻繁に止まっているわけではない。素人考えでは、フード付きのリフトとゴンドラは同じようなもののように思える。集客にも大きく影響すると思うので、その点の考えを聞きたい。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

先ほども説明させていただいたが、新設する第2クワッドリフトは、現在のリフトよりも性能を向上させたいと考えている。フード付きという限定をしてしまうと、事業費も当然変わってくる。実施設計における提案の中で、どのようなものが出てくるのかを待ちたい。現在見込んでいる事業費は、フード付きを前提としたものではない。

**【新保良一委員】**

承知した。

**【吉野誠一委員】**

今まさに雪だるま高原そのものが生まれ変わろうとしているのではないか。本計画は、新しい価値を見出し、10万人という集客目標をなんとか達成しようというものであると理解した。そのうえで支障になると思われるのが、廃止されたゆきだるま温泉雪の湯の施設である。スキー場のようなリゾート地は、日常とは異なる異文化の中で運営されるのが理想であると思っている。ゆきだるま温泉雪の湯の施設を早く除却してもらわないと、生まれ変わった雪だるま高原ということにならないのではないか。その辺りの考えを聞きたい。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

市では、令和12年度までの財政計画を策定し、今後8年間の様々な事業費の積算と位置づけを定めている。ゆきだるま温泉雪の湯の施設については、現在、株式会社スマイルリゾートがピロティ等の部分を倉庫や作業場として利用している。市内には、ほかにも多数の廃止施設が存在しており、優先順位を勘案した結果、今後8年間における除却は予定されていない。当面、株式会社スマイルリゾートに管理していただきながら、活用してほしいと考えている。

**【松苗正二会長】**

ほかに質問等あるか。

**【池田裕夫委員】**

現在の第2クワッドリフトは、3年間の工事期間の中で取壊すのか、それとも別個に考えているのかを聞きたい。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

先ほども述べたが、現在の第2クワッドリフトはほぼ限界を迎えている。スキー場にとって、リフトはまさに命綱といえる部分である。先日、長野県のスキー場でリフトの搬器が落ちて、2名が負傷したというニュースを皆様もご覧になっているかと思う。指定管理者は、日々の点検によって安全を確保しながら、リフトを運行している。設置から33年目を迎える中で、例え残したとしても、引き続き運行できるかどうか、今後は不安な状況が発生する可能性もある。

3年間の工事期間の中で、2年目に現在の第2クワッドリフトを取壊した後、新しいリフトの建設を進める予定となっている。また、第1クワッドリフトと第2クワッドリフトでは、共通する部品もある。第1クワッドリフトに不足する部品を供給するという意味でも、現在の第2クワッドリフトを取壊して、新しく建設するということを考えている。

**【池田裕夫委員】**

第1クワッドリフトと第2クワッドリフトは、同じ年度に設置していると思うが、第1クワッドリフトはどのような整備計画になっているか。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

第1クワッドリフトと第2クワッドリフトは、同じ年数が経過しているが、第1クワッドリフトについては、ここ5年くらいでモーター等の主要な部品を交換している。将来的には、第1クワッドリフトもさらに整備しなければならないが、まずは第2クワッドリフトの更新が先決である。

**【松苗正二会長】**

ほかに質問等あるか。

(質問なし)

ほかに質問等なければ、私のほうから1点お願いしたい。

今回の新第2クワッドリフトの建設は、魅力を感じる施設、使いやすい施設を目指し、整備するものだと思っている。現在の6万人程度の集客から、10万人という目標を目指すということであるが、リフトの最初の乗り場としては、第1クワッドリフトと第3ペアリフトの2か所になる。10万人になったとき、行列ができてしまう場合もあると思うので、待ち時間の解消や安全性の確保に向けた検討を行い、魅力あふれる施設になるようお願いしたい。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

ご要望として承る。松苗会長が言われるとおり、現在も天候の良い日曜日の朝に第1クワッドリフトの行列がゴンドラ乗り場近くまで伸びることがシーズン中に何回かみられる。この原因としては、多くの人がゲレンデの上から下のベースエリアまで一気に滑り下りてしまうことにある。第2クワッドリフトが快適になれば、ゲレンデ上部で滞留する時間が増えて、第1クワッドリフトの乗り場の混雑も解消するものと考えている。いずれにしても、第1クワッドリフトの乗り場の混雑対応については、誘導員の配置等によって対応することになると思う。

**【池田康雄委員】**

資料10ページにリブランド効果7千人という記載があるが、これは何か。

**【浦川原区総合事務所 滝澤主幹】**

株式会社スマイルリゾートは、舞子スノーリゾートやムイカスマイルリゾートなど自社が運営するスキー場において、新しい客層を獲得するために様々な工夫を行っている。新第2クワッドリフトの建設を機に、株式会社スマイルリゾートが運営するほかのスキー場との相乗効果を図り、戦略的に運営していくというのがリブランド効果の内容である。

**【池田康雄委員】**

承知した。

**【松苗正二会長】**

ほかに質問等なければ、以上で雪だるま高原将来計画の概要についての報告を終了する。ここで施設経営管理室と浦川原区総合事務所の職員は退席となる。

次に報告事項（2）消防団安塚方面隊の再編についての報告に移る。事務局に説明を求める。

**【大島次長】**

資料2に基づき、令和5年4月1日からの消防団安塚方面隊の再編内容等を説明。

**【松苗正二会長】**

事務局から説明があったが、何か質問等あるか。

**【中村真二委員】**

朴の木消防器具置場について、資料の再編後の欄に記載がないが、建物はどのような取扱いになるか。



**【大島次長】**

再編後、消防団としては、消防器具置場を利用しないことになるが、建物はそのまま残る。管理については、これまで消防団や地域の皆様をお願いしてきたところであるが、再編後も同様の形をお願いする中で、地域の皆様の要望もお聞きしながら、最終的に不要となれば、除却費用を予算要求し、整理していくことになると思う。

**【中村真二委員】**

建物の所有者は誰か。

**【齋藤主任】**

朴の木消防器具置場について、建物は市、土地は個人の所有である。

今年度をもって、消防団は消防器具置場を利用しないことになるが、中に消防用の物品があるため、消防団の方で来年度1年間かけて不要物品等を整理する。地域の皆様からは、建物を利用したい旨のお話も聞いているので、今後、消防団による物品の整理完了後、改めて意向を確認させていただく。活用したいという意向があれば、条件等もあるが、譲渡に向けた検討を行うという流れになる。

**【中村真二委員】**

承知した。

**【新保良一委員】**

団員も少なくなり、維持していくのが難しいことから、再編するという流れは分かるが、一方で段々と安全対策が疎かになっていく気がしてしまう。今までは、一般の住民が率先して消火栓を使用した初期消火を行うことができたが、昨年くらいからそれができなくなったと聞いている。再編によって、積載車や可搬式ポンプが少なくなるのはよいが、そのような状況の中で初期消火をどのように考えているか。

**【大島次長】**

一般の住民による消火栓の取扱いについては、過去に安全面で問題があったことなどを考慮し、全市的に使用できないことになっている。団員が減少しても、少なくとも地域に消火栓を使用できる方がいるよう、どなたかは団員として残っていただけるように、消防部長の皆様をとおしてお願いした結果、今回の再編後の体制となっている。完全に十分な体制とは言えないかもしれないが、常備消防ともしっかり連携しながら、可能な限り住民の皆様が不安を感じないようにしていきたい。

**【新保良一委員】**

承知した。特に冬場は雪も積もり、夜間の火災発生時に地元で初期消火ができないと、

大火災になりかねない。初期消火について、もう少し考えて、対応していただきたい。

**【大島次長】**

4月から再編となるが、進めていく中でまた課題が出てくるかもしれない。消防団の皆様の声も聴きながら、可能な限り課題を解消できるように一緒に考えていきたい。

**【吉野誠一委員】**

団員数が減ってきて時代の流れを感じるが、消防器具置場を廃止し、可搬ポンプも何もないとなれば、新保委員が言ったように冬場はどうするのか。火災の発生時は、何よりも機動性が問われる。小黒消防器具置場から朴の木へ、和田消防器具置場から行野へ出動を要するという事態も想定される。特に初期消火の観点から、適正配置というからには、機動性も勘案したうえで配置していると思うが、その辺りの考え方はどうなっているのか。

**【大島次長】**

最初に申し上げたが、団員数が減少する一方で、対象範囲は広がるので、どのようにしても、これまでと同程度の機動性を確保するのは難しい面が出てくる。小規模な消防部において、活動を維持できない消防部が出てきて、消防の空白地帯が生じてしまうのが一番よくない。それを避けるためには、大きい消防部に統合し、何とかカバーしなくてはならない。機動性については、ご指摘のとおりであり、それを蔑ろにするわけではないが、こうすれば機動性を確保できるというような答えをなかなか見出せない状況である。まずは、団員数が減少していく中でも、地域の消防力を維持するというのが、今回の再編の一番の目的である。

**【吉野誠一委員】**

適正配置というからには、そこをしっかりと加味して配置しなければ、うまくないと思う。そうでないと不適正配置になる。

**【大島次長】**

公の施設の適正配置とは異なり、再編である。適正化ということを前面に出しているものではない。今いる団員の中で地域をいかにカバーしていくかという趣旨のものであって、必ずしも最適化にはなっていないというのが、現実のところである。

**【吉野誠一委員】**

承知した。

**【松苗正二会長】**

補足であるが、消防団は、率先して消火活動にあたるというよりも、消防署のために

協力するというような形で考えた方がよいと思う。私が消防団にいた頃、消防団員はあまり火災現場のすぐ傍へ行かず、東頸消防署の補佐をする役割であるという話を聞いたことがあった。火災などの報告があった場合、まず、消防署が先頭になって配置につくので、消防団はそれを補佐するということである。

**【吉野誠一委員】**

指揮命令については、当然、東頸消防署が核になると思う。あとは本部から出動することになる。私も以前消防団に入っていたが、火災が発生した場合、まずは東頸消防署が初期消火に駆けつけ、それから消防団が団員をそろえて出動するというふうに聞いたことがある。人数が集まらず、ポンプ車が出動できなくて困ったときもあった。機動性について、なんとかもう少し研究していただければと思う。

**【池田裕夫委員】**

再編前は、懐かしい中学校区で安塚、小黒、菱里に分かれていたものが、今回の再編によって、小黒から和田に変わっている。この理由は何か。

**【大島次長】**

理由は承知していないが、分団で相談した結果、消防部名は決定されている。

**【池田裕夫委員】**

分団で決定したのか。

**【大島次長】**

基本的に分団の方で検討した結果を踏まえ、決定している。

**【松苗正二会長】**

正直なところ、消防団に入る人はなかなかいないと思う。私が消防団にいた頃は、30歳になれば、退団可能なほどの団員が在籍しており、5年から7年在籍した後、退団して新入団員と交代できるような状況であった。私が退団する頃には、30年在籍しなければ退団できず、30年務めれば、退団を申し出ても仕方がないというような状況であった。消防団にいた頃、消防団員の定年について、団長に65歳ぐらいまでと言われたような気がする。色々と負担が大きいため、入団者がいないのだと思う。

可能であれば、団員としては、10年ぐらいと消防団で決めていただき、あとはOB団員のような形で負担を軽減してもらいたい。ポンプ操法とか技術訓練は大切であるが、10年も経験すれば、大体皆さん理解しているので、その後は、そのようなことに負担をかけないシステムにしないと、なかなか団員は集まらないのではないか。今後、そのようなことも検討してほしい。

【大島次長】

他地域においても、正副団長会議で同様の意見が出るなど、どこも状況は同じであり、会議の場で本部にも伝わっているし、危機管理課も承知していると思う。どのようなことができるのか、検討していく必要があると考えている。また、今回いただいたご意見については、担当を通じて、危機管理課へ伝えさせていただく。

【松苗正二会長】

ほかに質問等なければ、以上で消防団安塚方面隊の再編についての報告を終了する。

次に報告事項（３）地域独自の予算の事業一覧についての報告に移る。事務局に説明を求める。

【萬羽主任】

資料３に基づき、地域独自の予算事業の令和５年度予算案を説明。

【松苗正二会長】

事務局から説明があったが、何か質問等あるか。

（質問なし）

質問等なければ、以上で地域独自の予算の事業一覧についての報告を終了する。

次に次第４自主的審議事項（１）住みやすい安塚の在り方について（地域活性化の方向性について）の協議に移る。

本日の地域協議会に向けて、小委員会を２月７日（火）と１０日（金）に開催し、検討を行った。私の方から、小委員会で検討した内容を報告し、その後、皆さんの意見を伺いたいと思う。

小委員会では、前回の第１２回地域協議会の協議結果を踏まえ、①リバーサイド活性化プロジェクト、②月一祭り、③小さな拠点、④イベント実行委員会、⑤観光看板設置、⑥移動タクシー等、⑦特産品開発等、⑧区出身者等による講演会の８項目を中心に検討した。２月１０日（金）の小委員会の時点では、⑤観光看板設置まで検討が進んでいる。

はじめに①リバーサイドロード活性化プロジェクトについてである。現状のリバーサイドロードは、整備が十分なされているとは言えず、活性化を考えるうえで、まずは整備について考えるべきであるという意見が挙げられた。そこで、どのような内容で整備を行うべきか話し合ったところ、冬期間折れた枝の処理や法面、インターロッキングの草刈等を今以上に行うことによって、景観を維持すべきであるという意見が出た。また、歩道の清掃を行うべきであるという意見もあった。約６キロメートルあるリバーサイドロードの清掃等をどのように行っていったらよいか検討した中で、公募によって人手を

募り、管理組合のようなものをつくるという方法がよいのではないかと考えている。公募した結果、応募する人がいない場合は、業者委託でもよいと思う。

ただ、リバーサイドロードの活性化ということであれば、整備だけでなく、イベントの実施等による活用という部分も検討する必要がある。春は桜、秋は柳葉ひまわりをいかしたイベントが考えられると思う。活用については、まだ十分に検討できていない状況である。

次に②月一祭りについてである。実施主体として思い浮かぶのは、雪だるま物産館であるため、まずは雪だるま物産館と地域協議会で意見交換をしながら、検討を進めることができると考えている。

次に③小さな拠点についてである。安塚区内にくつろげる場所、情報交換ができる場所をつくってみてはどうかという思いから、検討を始めたものである。NPO雪のふるさと安塚や雪だるま物産館は、そのような役割も果たしているが、もっと気軽に立ち寄れる場所が必要である。現在は休止中と聞いているが、牧区の高尾集落で実施していたお茶のみ散歩を参考に検討を進めていきたいと考えている。

次に④イベント実行委員会についてである。これについては、NPO雪のふるさと安塚において、区内活動団体の代表者が新たに理事に加わるなど、取組を進めている最中と聞いているので、そちらにお任せしたいと考えている。

最後に⑤観光看板設置についてである。観光看板の設置は、ハード事業にあたり、地域独自の予算で提案することは難しいと考えられるため、意見書の提出という方向で検討を進めた。しかし、情報発信としては、現在、インターネットやSNS等の手法が主流になっており、観光看板設置では弱いように感じている。皆さんの意見を伺ったうえで、今後の方向性を検討していきたい。

2月7日(火)と10日(金)の小委員会で検討した内容は以上である。これについて、意見等あるか。

#### 【中村真二委員】

⑤観光看板設置について、区内にある安塚八景の看板が老朽化しているため、以前から更新してはどうかと想っていた。また、朴の木集落に天空のお花畑の看板があるとよいとも想っており、朴の木集落単独で提案するのではなく、安塚区全体の事業として、新たに区内の名所等の看板設置に取り組んでいった方がよいと考えていた。

#### 【松苗正二会長】

老朽化している看板というのは集落看板のことか。

【中村真二委員】

いすすぐらの滝などを紹介している、安塚八景という看板である。老朽化した看板を更新するとともに、写真スポットとして整備することができないかと思った。

【松苗正二会長】

観光看板のイメージが少し異なっているかもしれない。小委員会で検討していた看板は、区内のイベント情報等を発信するようなものである。具体的には、青野の交差点を直江津方面に進むと、観桜会の期間等をお知らせする看板があり、そのような看板を安塚区にも設置することができたらよいと考えていた。そうすれば、区外の方にも安塚区でこういうイベントがあるんだというふうに知ってもらえることができると思う。

【中村真二委員】

承知した。

【松苗正二会長】

ほかに意見等あるか。

【山岸重正委員】

私も安塚八景の看板は老朽化しているので、更新した方がよいと感じていた。新たに看板を設置するのではなく、既存の看板を有効に活用して情報発信するという考え方もあるのではないか。

【松苗正二会長】

せっかく安塚町時代に整備したものであるので、活用できるものは有効に活用すべきであると思う。

観光看板設置については、小委員会に参加していなかった委員の皆さんの意見も伺いたいので、池田康雄委員から順番に発言をお願いします。

【池田康雄委員】

ないよりはあった方がよいと思うが、何とも言えない。

【小松光代委員】

観光看板の設置は、ハード事業にあたり、地域独自の予算での提案は難しいというふうに聞いているが、もし設置されれば、一定の効果があると思う。SNSやインターネットに長けている人は、そこで情報を入手できるが、そういう人ばかりではないと思う。

【新保良一委員】

私も小松委員と同様の意見である。SNSを活用した情報発信は、現代に必要不可欠であるが、看板もそれに匹敵するくらいの効果があると思っている。

**【中村真二委員】**

イベントを告知するための看板であれば、インターネットで発信した方が効果は高いのではないかと。看板を設置するよりも、インターネットでの発信を専門に行う人に対する人件費に充てた方がよいと思う。インターネットでの発信はやり方次第である。例えば、キューちゃん、ピットちゃんのツイッターアカウントをつくって、情報を発信するという方法も考えられると思う。

**【松苗正二会長】**

小委員会では、観光看板の設置について、地域独自の予算での提案は難しいと考えられることから、意見書として提出するという方法を考えた次第である。本日、小委員会に参加していなかった委員の皆さんの意見も伺ったので、改めて小委員会を開催し、検討を進めることとしてよろしいか。

（「はい」の声多数）

以上で本日の自主的審議事項についての協議を終了する。

次に次回の地域協議会の開催日を確認する。通常であれば、今回は3月28日（火）の開催となるが、年度末であることから、3月20日（月）の週に開催したいと考えている。皆さんのご都合はいかがか。

**【中村真二委員】**

個人的に3月24日（金）は都合が悪い。

**【松苗正二会長】**

それでは、3月22日（水）でよろしいか。

（「はい」の声多数）

今回は3月22日（水）午後6時から開催する。

次に小委員会の開催日を決定したい。

**【松野修委員】**

3月6日（月）の週でよいと思う。

**【松苗正二会長】**

3月7日（火）でよろしいか。

（「はい」の声多数）

小委員会は3月7日（火）午後6時から開催する。

以上で議事は終了となるが、連絡事項はあるか。

### 【吉野誠一委員】

自主的審議事項について、改めて全体で認識の共有を図りたい。地域協議会は、実施団体ではないと思う。何かをやろうという計画をつくり、実施団体を募るところまではできるかもしれないが、地域協議会の立ち位置をどう考えるかが難しい。地域協議会だけが前面に出て主導しようとしても、実施団体が出てこなければ、うまくいかない。その辺りの切り分けについて、地域協議会全体として、今一度共有をお願いしたい。

### 【松苗正二会長】

承知した。

ほかに連絡事項等あるか。

(連絡事項なし)

会議の閉会を宣言

### 9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-592-2003 (内線 23)

E-mail : [yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp)

### 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。